

令和3年度



宜野湾市 平和大使育成事業

事業報告書



沖縄県  宜野湾市

市長あいさつ

本市におきましては、昭和60年に「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」を行い、その理念の下、平和の尊さや平和思想に対する啓発及び戦争と復興の歴史の経験を継承することを目的とする平和事業を推進しております。



その一環として、平成17年より「平和学習派遣事業」として、市内中学生8名を毎年8月9日に長崎で開催される「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に派遣し、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでいただく事業を推進して参りました。これまで延べ112名の生徒を派遣しております。

戦後76年が経過し、年々戦争体験者が減少する中、あらためて戦争の悲惨さや平和の尊さをしっかりと後世へ伝えていくことの重責を感じている次第でございます。

さて、本市は令和2年度より「平和大使育成事業」を開始し、今年度で、のべ18名の大使が誕生いたしました。平和大使の絆の構築と世代間の繋がり創出を目的とした当事業を推進することにより、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを次代へ継承する人材の育成を図ってまいります。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、残念ながら「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」への派遣は叶いませんでしたが、青年平和大使が代表としてオンラインで参加し、中学生の平和大使へ学びを共有いたしました。

また、宜野湾市嘉数を中心とした、戦跡を巡るフィールドワークのほか、沖縄戦や世界各地で起きた戦争に至る歴史について多角的に学ぶ機会になったことと存じます。

令和3年度平和大使におかれましては、これからも引き続き本市の平和推進事業へ積極的に参加し学びを深めていただくと共に、大使同士の絆の構築と平和な社会の創造にお力添えいただくよう、期待申し上げます。

結びに、本事業の実施にご理解・ご協力を賜りました教育機関、保護者の皆様により感謝申し上げますとともに、市民の皆様には、平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。

令和4年3月
宜野湾市長 松川 正則

目次

平和大使概要	3
平和大使名簿	4
認定証交付式及び事業説明会	5
事前学習日程	6
事前学習	7
平和学習及びオンライン報告会動画撮影	11
その他の活動	12
学習報告会	14
平和大使研修報告	
■ 普天間中学校 1年 小橋川 菜夏	15
■ 普天間中学校 1年 川満 咲季	17
■ 真志喜中学校 1年 宮城 亮太	19
■ 真志喜中学校 1年 又吉 竜生	21
■ 嘉数中学校 1年 山城 暁	23
■ 嘉数中学校 1年 我如古 悠士	25
■ 宜野湾中学校 1年 仲村 将琴	28
■ 宜野湾中学校 1年 本間 翔也	30
■ 沖縄国際大学大学院 1年 石川 勇人	32
令和2年度平和大使活動報告（フォローアップ研修）	33
宜野湾市平和大使育成事業実施要綱	36
宜野湾市平和都市宣言	38

事業概要

1. 背景と目的

戦後76年余りが経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代、特に若い世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

この過去の事実をしっかり捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では、平成31年度まで実施していました「宜野湾市平和学習派遣事業」を、世界平和を希求する「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」の理念の下、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材を育成するため、令和2年度より事業名を「宜野湾市平和大使育成事業」とし、平和行政の推進に取り組んでいます。

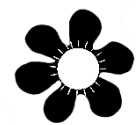
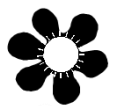
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、毎年8月9日に長崎で開催され平和大使を派遣する「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」は、青年層のみのオンライン参加となりましたが、2日間にわたる事前学習や長崎原爆についての平和学習等を通して、市内・市外・県外・海外の4つの視点で多角的に学びを深めることができました。

2. 実施経過

令和3年7月12日	平和大使認定証交付式及び事業説明会
令和3年8月1～2日	事前学習（嘉数集落のフィールドワーク、講話等）
令和3年8月8～9日	長崎市青少年ピースフォーラム（オンライン） ※青年大使 石川勇人さんが代表で参加
令和3年9月～11月	《平和祈念事業》市内4中学校にて開催の平和イベントにて、事前学習等を通して学んだことを報告
令和3年10月23日	平和学習及びオンライン報告会動画撮影
令和3年11月6日	《平和祈念事業》平和パネル展 平和大使活動紹介（オンライン報告会の放映、平和大使作成の新聞掲示等）
令和3年12月18日	平和大使フォローアップ研修（対象：令和2年度平和大使）
令和4年3月24日	市長、教育長、保護者及び学校関係者向け学習報告会

令和3年度宜野湾市平和大使育成事業 平和大使名簿

学校名・教育機関名	氏 名	学 年
普天間中学校	こばしかわ らいか 小橋川 菜夏	1年
	かわみつ さき 川満 咲季	1年
真志喜中学校	みやぎ りょうた 宮城 亮太	1年
	またよし りょう 又吉 竜生	1年
嘉数中学校	やましろ あき 山城 暁	1年
	がねこ ゆうし 我如古 悠士	1年
宜野湾中学校	なかむら まこと 仲村 将琴	1年
	ほんま しょうや 本間 翔也	1年
沖縄国際大学大学院	いしかわ ゆうと 石川 勇人	1年



認定証交付式 及び 事業説明会

～ 会 次 第 ～

日時：令和3年7月12日（月）18：00～19：00

場所：宜野湾市役所 多目的会議室

1. 事業内容の説明（事業目的）
2. 認定証交付式
3. 市長あいさつ・・・宜野湾市長 松川 正則
4. 自己紹介（平和大使、事業受託者）
5. 事業詳細と今後の流れ
 - ① 調べ学習
 - ② 県内研修（2日間）
 - ③ 県内研修にあたっての注意事項（持ち物・服装）
 - ④ ポスター制作（各自）
 - ⑤ 学習報告会
6. 市教育委員会 指導課長あいさつ・・・與那嶺 哲 指導課長

令和3年度 宜野湾市平和大使（9名）



（1列目左から）

川満咲季さん、小橋川菜夏さん、和田副市長、松川市長、宮城亮太さん、又吉竜生さん

（2列目左から）

我如古悠士さん、山城暁さん、仲村将琴さん、本間翔也さん

（別日交付）

石川勇人さん

事前学習 行程表

日付	時間	日 程	学習の視点
1日目 8/1 (日)	8:50	宜野湾市役所集合	
	9:00	アイスブレイク	
	9:20	出発	
	9:40	●嘉数高台公園 階段下→陣地壕→展望台→トーチカ→京都の塔・嘉数の塔	市内
	11:00	●フィールドワーク（嘉数集落内）	
	12:10	昼食	
	13:10	●講話 前 南風原文化センター館長 大城和喜氏	市外
	14:30	解散	
2日目 8/2 (月)	12:50	宜野湾市役所集合	
	13:00	●講話 マンガ「ペリリュー楽園のゲルニカ」 作者 武田一義氏	海外
	15:00	●ワークショップ 「100歳・98歳の兄弟が語る 特攻 最後の証言」 について考える SITY 株式会社 永田 健作氏	県外
	16:00	解散	

事前学習1日目①

事前学習では、市内・市外・県外・海外の複数の視点で戦争について学習しました。1日目午前は、市内の嘉数高台公園内（陣地壕、展望台、トーチカ、京都の塔・嘉数の塔）や集落内の戦跡を巡り、市内で起きた戦争について学習し、午後は、前 南風原文化センター館長大城和喜氏に市外の視点で講話いただき、平和大使の使命について学習しました。

(1) 市内の視点



▲出発前のアイスブレイク 緊張気味

嘉数高台公園 学習内容

公園階段下：戦時の生活や戦争準備について

陣地壕：地上戦について

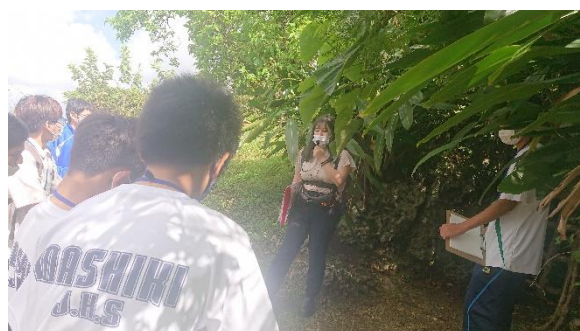
展望台：沖縄戦の概要について

トーチカ：戦闘方法について

京都の塔・嘉数の塔：沖縄戦の特徴について



▲戦時中の生活や戦争準備について学習



▲陣地壕



▲展望台からみる地形



▲トーチカ 日本軍の攻撃拠点

事前学習1日目②



▲トーチカの中の様子を体験



▲京都の塔・嘉数の塔



▲嘉数集落内のフィールドワーク

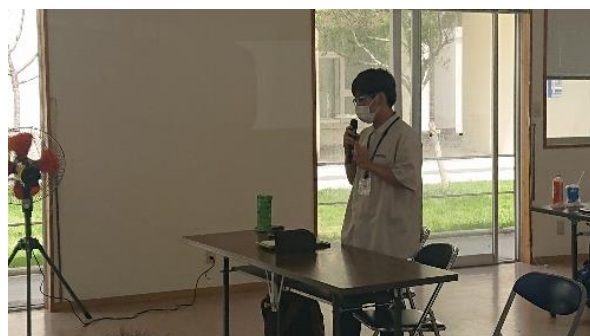
「今が戦前だったら？」の前提のもと、集落内の戦跡に足を運び、戦前と現在の集落を見比べながら沖縄戦について学習しました



(2) 市外の視点



▲前南風原文化センター館長
大城和喜氏の講話



▲大城氏に質問をする平和大使

講話 学習内容

1. 平和とは
 - ・沖縄戦や戦後の事故、差別、貧困について
2. 原爆について
 - ・原爆被爆者 沼田鈴子さんについて
 - ・原爆詩「慟哭（慟哭）」
3. 平和をつくるためには
 - ・戦争体験者の話を聞く
 - ・調べる（本・資料館）
 - ・壕や戦跡を訪ねる
 - ・「正しい」ことを見分ける

事前学習2日目①

2日目午後は、マンガ「ペリリュー楽園のゲルニカ」の作者 武田一義氏に講話いただき、海外の視点で戦争について学習しました。戦争を体験していない世代が、後世に語り継いでいくことの意味や難しさ、大切にすべきことを学習しました。

(3) 海外の視点



▲「ペリリュー楽園のゲルニカ」の作者
武田一義氏の講話



▲武田氏（1列目中央）との集合写真
後日、武田氏から平和大使へ最新刊の
プレゼントがありました



▲マンガ1～11巻



▲後日、お礼のメッセージを
送付しました

ペリリュー楽園のゲルニカ

日米合わせて5万人の兵士が戦う狂気の戦場 ペリリュー島。マンガ家志望の田丸一等兵の視点で“戦争”の時代に生きた若者の日常を描いているマンガ。世代を問わず戦争について学ぶことができる内容となっており、平和大使もマンガを通して学びを深めました。

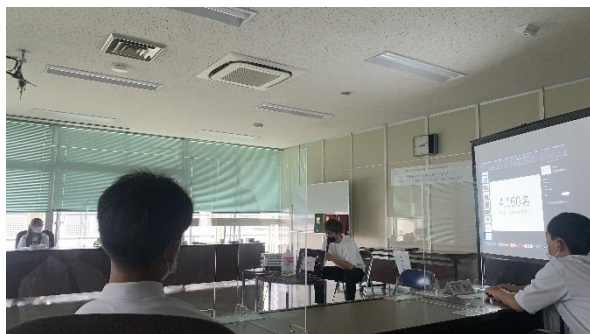
ペリリュー島はパラオにあるパラオ諸島の主要な島の一つ ▶



事前学習2日目②

県外の視点で「100歳・98歳の兄弟が語る 特攻 最後の証言」について考えるワークショップを行いました。本の内容をもとに、学徒出陣や特攻隊について学習し、感じたことをまとめ、後日、岩井忠熊氏へ手紙を送付しました。

(4) 県外の視点



▲学習の様子



▲岩井忠熊氏へお手紙を送付しました

ワークショップ 学習内容

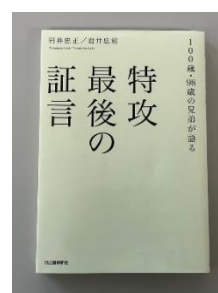
- 天皇主権、世界大恐慌、ブロック経済、満州国、太平洋戦争の主な出来事等について
- 特別攻撃隊、神風特別攻撃隊、人間爆弾 桜花について
- 岩井兄弟が体験した特攻隊について
(回天・震洋・伏龍)



感じたことをまとめ
後日、岩井忠熊氏へ手紙を送付

100歳・98歳の兄弟が語る 特攻 最後の証言

大学在学中に特攻隊に志願し生き残った100歳の兄 岩井忠正氏と98歳の弟 岩井忠熊氏。本を通して、「大杉事件」「南京大虐殺」「満州事変」など、2人が体験した歴史上の事件、特攻や戦争の愚かさについて学習し、平和大使も県外の視点で学びを深めました。



平和学習 及び オンライン報告会動画撮影

10/23 は長崎原爆の実相を伝えた資料を用いての平和学習を行い、原爆や戦争について学習しました。また、宜野湾市平和大使代表としてオンライン青少年ピースフォーラムに参加した青年層平和大使の石川勇人さんから、ピースフォーラムを通して学習したことについて話を聞きました。



▲原爆による熱線の被害について学習



▲ピースフォーラムについて話を聞く様子

平和学習後は、お笑い芸人 リップサービスさんの進行のもと、オンライン報告会の撮影をしました。



▲リラックスした雰囲気での撮影



▲笑顔で記念撮影をする平和大使

オンライン報告会について

宜野湾市は、本事業の「平和大使育成事業」とともに「平和祈念事業」（戦争体験のない戦後世代、特に若い世代に戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さを継承するために各中学校での平和イベント開催や市民向け啓発イベント等の開催）を行っています。

今年度の「平和祈念事業」の一環として、市公式 YouTube にて平和大使によるオンライン報告会及び戦争体験者の証言を元に創作した平和劇を配信しています。オンライン報告会では、事前学習や青少年ピースフォーラムを通して感じたこと、学習したことを発信しています。



市平和コンテンツ

～ R2 年度平和祈念事業において作成 ～

市在住9人の戦争体験者のインタビュー動画の視聴ができます！その他にも、市内戦跡マップやマンガで市の戦争について学習することができます。

その他の活動

●テレビ放送

8月9日（月）TBSテレビの報道番組「News23」 戦後76年プロジェクト「マンガで伝えるペリリュー戦」にて、事前学習2日目の講話の様子が放送されました。



●中学校イベントでの活動報告

市平和大使として、これまでの活動を通して学習したことを生徒や先生に報告しました。また、掲示コーナーにおいては、多くの生徒が、平和大使が作成した新聞を熱心に見ていました。



▲普天間中学校



▲真志喜中学校



▲宜野湾中学校



▲嘉数中学校



▲平和大使が作成した新聞を見る生徒たち

その他の活動

●平和パネル展 平和大使活動紹介

平和祈念事業の一環として、11月6日（土）にサンエー宜野湾コンベンションシティ はごろもコートにて平和パネル展を開催しました。パネル展では10月に撮影したオンライン報告会の放映や平和大使が作成した新聞、これまでの活動様子が分かる写真等を展示しました。



▲パネル展の様子



▲平和大使新聞 掲示



▲オンライン報告会 上映の様子

●各種紙面掲載

7/12 平和の大切さと命の尊さを次代へ継承
宜野湾市平和大使認定証交付式




戦争の悲惨さ、平和の大切さおよび命の尊さを次代へ継承する、宜野湾市平和大使の認定証交付式が行われ、市内4公立中学校から各2名と沖縄国際大学大学院生1名の計9名が認定されました。認定証を受け取った宮城亮太さん（真志喜中1年）は「平和大使になって、戦争の恐ろしさを伝えて、二度と戦争を繰り返さないような未来をつくりたいです」と決意を語りました。

▲認定証交付式の様子が市報9月号に掲載されました



▲中学校イベントでの平和大使活動報告の様子が沖縄タイムス（2021年11月15日）に掲載されました



学習報告会

～ 会 次 第 ～

日時：令和4年3月24日（木）18：00～19：30

場所：宜野湾市役所 多目的会議室

開会

1. 青少年ピースフォーラム修了証書授与・・・宜野湾市長 松川 正則
1. あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・宜野湾市長 松川 正則
2. スライドショー・・・・・・・・・・事務局
3. 平和大使による研修報告・・・・・・・・・・平和大使9名
4. 講評・・・・・・・・・・・・・・・・・・宜野湾市教育長 知念 春美
5. その他
・今後の日程について

閉会

研修報告



平和大使になって学んだこと

普天間中学校 1年 小橋川 菜夏

私は平和大使になって、戦争の悲惨さ、平和のありがたさを知りました。

1日目に行った嘉数高台では、トーチカ、京都の塔、陣地壕をみました。その中でも一番覚えているのがトーチカで、コンクリートでつくられた陣地で実際に中もみてもみると、5人ほど入れる広さでした。陣地壕も似たようなものですが、陣地壕は日本軍が陣地を構えるために掘った軍事用の人工壕で、今も嘉数高台公園にあります。また、1日目には、嘉数集落もまわり、建物の様子を、屋号図をみながら歩いたりしました。

2日目は、市役所で戦争についての話をききました。そのとき知ったことそれは終戦日についてです。一九四五年六月二三日が終戦日だと思っていましたが、実際に終わったのは九月七日だそうです。六月二三日は、軍のトップが自決した日であるそうです。他にも戦争についてかいたマンガ「ペリリュー」の作者、武田一義さんが講演をしてくれて、マンガをかこうえで立ち向かった壁や、自身の体験をすべて話してくれました。マンガを手伝ってくれた岩井さんについても話していました。岩井さんは98才の戦争体験者で、当時のことを収めた一冊の本があります。そこに「自分の意見を言えない恐ろしさ」と書いてありました。この言葉に衝撃を受けました。私たちは、自分の意見を持ち行動できますが、当時は軍のトップの指示に従い続け、意見は全て捨てられ、それを防ぐ手立てさえもできなかったそうです。そんな時代を経て新しい時代ができていくのだと私は思います。

この2日間の平和学習を通して、今まで知らなかったこと、そして改めて戦争のおろかさを感じました。命を懸けても反対のできなかった戦争を、もう二度と繰り返さないよう、私たちが平和な世界をつくっていきたいです。

研修報告



平和大使になって学んだこと

普天間中学校 1年 川満 咲季

今回私は平和大使として事前学習一日目と事前学習二日目に行きました。

まず、事前学習一日目では、嘉数高台に行き、トーチカについて学びました。

トーチカとは、アメリカ軍が昭和 20 年 4 月 1 日に読谷村付近に上陸を始め、3日後には中部一帯に進み、主力部隊は、さらに目指し、その先に嘉数高台、トーチカがありました。

トーチカの攻撃方法は「銃眼」と呼ばれる窓からの機関銃などを出して相手を攻撃しました。

他にも嘉数高台では、京都の塔という沖縄戦に加勢した京都府の将兵約 2530 人が共に激戦区の嘉数の戦いに戦ってくれたことによって建立された塔がありました。

事前学習二日目では、事前に読んでいた「ペリリュー～楽園のゲルニカ～」の作者の武田さんが来てくれ、講話をしてもらいました。

このマンガは、あったかもしれない戦争の話です。ペリリューという島は本当にあるので現実味がありました。

それに、マンガということで絵があるため話がとても分かりやすかったです。

この2日間を通して、私は平和について理解を深めることができました。1日目では、沖縄戦でおきたことをより知れ、2日目では、自分が知らないだけで沖縄以外でもたくさん戦争がおこっていたということがわかりました。

これからは、沖縄戦以外の戦争も調べていきたいと思いました。

嘉敷高台で習んだ事



トーチカとは
トーチカは嘉敷高台公園にあり、鉄筋コンクリートなどで堅固に造られた防衛陣地のことであり、トーチカとはロシア語で「点」や「拠点」を意味している。「銃眼」とよばれる窓から機関銃をだし、相手機銃を攻撃していた。トーチカ内は四〜五人入ることかできる広さを、中は涼しく、快適だった。

平和新聞

令和3年度
宜野湾市平和大使
普天間中学校
1年 川満 咲季

嘉敷の集落
嘉敷高台の靴いで負傷した兵士も民家で養い、対価として家事を手伝いをしたり、その集落である行事に参加したりなど、なまじりて住民と特友関係も築いたと考えられた。その他にもそれぞれの家にアルファベットと数字が書かれており、それぞれその地区の頭文字とその家の番地が書いてあり、これにより、その家を支配していることがわかった。

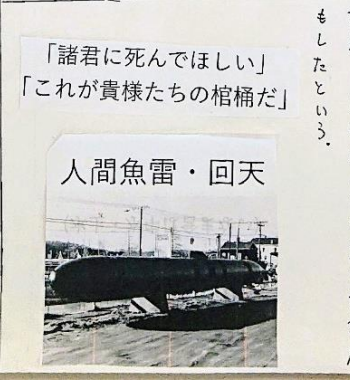


本から伝わる戦争

成心相心
今回の二日間にあたる事前学習では知っていることを振り返り、より考えを深めることができたり、新しいことを知ることができたり、新たな考えができてきたりなど、たまた二日間でしたがそれぞれもたくさん情報と知識を得ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。



ペリリュー島の戦争
この本はマンガと描かれていて、実際にある島パラオを舞台にしてあったかもしれない物語かつづらされており、中見を見るとひんがしな描写が描かれており、戦争がどんなものなのかよくわかる本だった。
作者は武田一義さん。



特攻最後の証言
この本は100歳と98歳の兄弟の岩井忠正さんと岩井忠能さんが実際に体験したことが書かれている。
そのため言葉にも重みがあり、左にある写真以外にもいくつもの特攻船などがあり、その被害も多く、この特攻で亡くなった人達もたくさんおり、軍事訓練では死ぬような思いを何度しましたという。

「諸君に死んでほしい」
「これが貴様たちの棺桶だ」

人間魚雷・回天

研修報告



平和大使で学んだこと 考えたこと

真志喜中学校 1年 宮城 亮太

僕は平和大使になって戦争の悲惨さ、人が側に居てくれる事の大切さを学びました。

平和大使一日目の活動では嘉数高台での戦いを振り返りました。いつも目にする事がある嘉数高台公園では、たくさんの人が亡くなって戦争が終わった今でもたくさんの人が悲しんでいるという事を知り、戦争は遠く昔にあった出来事だと思っていたけれど、まだ、僕達の身近にある事なんだなと実感した時間でした。

午後は、大城さんの話を聞いて、戦争は兵士だけではなく国民全員が苦しめられていた事を教えてもらい、今僕が家族で笑いながらごはんを食べられているのはあたりまえではないと感じ一日一日を大切に生きていきたいと思いました。

戦争は悲惨で、人が亡くなっていくのは悲しい事とは分かっているけれど、その後に自分がどうしたら戦争は繰り返されないのだろうか、また、自分が争いの元にならなかったとしても世界のどこかで争いがあったら僕には何ができるのでしょうか。

実際に今でも他国で紛争や戦争とたくさんの人達が命を落としています。それを他人事だとは思わない事。自分自身も身近にいる人達から気にかけて本当の平和とは何かを考えていきたいです。

一人一人が思う正義は異なる事もあると思います。自分の意見をはっきりと示すのは大切な事だけど、その考えは間違いだと否定するのではなく他人の意見に耳を傾けてそういう考え方もあるんだと他者理解を通して人と人との輪を広げていくと争いは自然と少なくなっていくと思います。

平和学習を通して僕は、人と人が完全に解り合うのは不可能だからこそ相手に優しくしたいと思いました。

戦争から他者理解を考える

平和学習

	人数	犠牲者	死者
北(新城)	320名	39名	12%
南(喜敷)	704名	336名	48%

喜敷高台

沖繩の北側に位置する新城と南に位置する喜敷とは犠牲者の数が大きく違いますが、喜敷には日本軍の陣地があり喜敷から日本兵に隠れていた人々は逃げなさいと言われ、南側で戦いに巻きこまれてしまった。北側は投降して助かった。

前田高地は日本軍の首里を見あたる事ができたため日本軍による死闘が繰り広げられた。この前田高地での戦いは互に日本軍にとっても前田高地は最後のとりで、住民がもともと多く戦いに巻きこまれました。前田高地での戦いは、週間で約300人の人が亡くなりました。

新聞 真志喜中学校 1年 宮城 亮太

特攻隊

特攻隊とは特別攻撃隊の略。日最新鋭の兵器(戦車など)を多量に持っていたアメリカ軍に對抗するために日本軍は兵士達に手榴弾を持たせて戦車へ突っこませるといった戦術で日米共に多くの犠牲者を出しました。

特攻隊では空陸海軍の3つがある。特攻隊で人材を無くしてしまつた日本軍は、学徒隊を出陣させました。

後に戦況が悪化し、大学生も戦々手に参加した。

学徒出陣

- 20歳以上の男性に兵役の義務
- ただし、大学生は免除
- 1943年、一部の学生を動員

神国特別攻撃隊

天白王主権

当時の日本は、天白王が絶対という考えだ。ですが昭和天白王は「天白王主権だから天白王は一番偉く何をしてもOK」という考えではなかった。そこで事件はおきます。

命を命で、天皇のためには天皇の意見に限らず、国民の意見もとりいれよう。

昭和天皇

日本軍

他人と自分の価値観を頭に入れて、主張するだけじゃなく相手の考えの背景も理解すること。共生社会を創る事ができるんじゃないかと考えます。

そこを天白王がなにも言わなかつたのをいり事に、領土拡大を進める。この領土拡大は戦争をおこし、日本戦争へつなげていきました。

研修報告



平和学習で学んだこと

真志喜中学校 1年 又吉 竜生

僕は平和大使になって、戦争についての、様々な見方や捉え方があるということを知って頂き、戦争とはどのようなものがあるのか、くわしく知ることができました。

一日目の活動では、嘉数高台の戦いについての話や、世界の戦争についての資料を見ました。嘉数高台には今まで何回も行った事がありますが、初めてトーチカに入ったり、嘉数集落を見てまわりました。トーチカの中はうす暗く、少し寒くて当時の怖さを感じることができました。集落には終戦後、米軍が管理していたことがわかる建物に書かれた番号や、洗濯に使われていた泉なども見せてもらいました。この時点で初めて知ることが多くとてもよい学習になりました。そして午後には世界の戦争などについて学びました。ぼくは日本戦のことを考えていましたが、この時、戦争が世界で起きていたのだと気づかされました。今、日本は平和ですが世界のどこかで今も戦争や紛争が起きていると考えるといつ日本で起きたり、巻き込まれたりするのか分からないなど、少し恐ろしくなりました。

そして今まで、戦争に関する本やマンガを読んだことがなかったのですが今回の体験で「ペリリュー」という戦争マンガを初めて読みました。戦争の話の人から聞いても怖さが実際、よく分からなかったのですが、マンガのように絵があったり、主人公と仲のよい人が死んだりするところでもとても戦争の恐ろしさが伝わってきました。

戦争はいつ起こるのかわかりません。しかし、戦争が起こるまえに僕たちが戦争の恐ろしさを伝えていければ、戦争が起こらないかもしれません。そのために、まずは、自分の感情でものを言わず、相手の立場から考えてまわりと接していくことから始めたいと思いました。

平和新聞

ぼく達で、他人に
伝えるために学んだ事



小銃の跡が破壊された
嘉敷のトーチカ

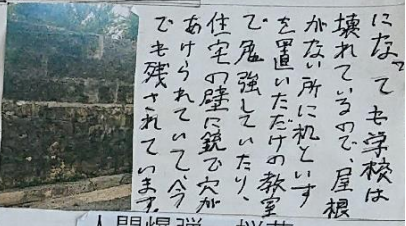
トーチカとは一般に円形
や方形などの形をしていて
大きさは全長数メートル
から数十メートルで銃眼の
なる穴が開いていてここ
以外は壁でよく保護されて
いる防衛施設です。コンク
リート製のものは榴弾砲の
直撃に耐えうるという特徴
が特徴とされています。資材
不足の場合でも石やレンガ
の砂などを用いた物を利用さ
れていました。一般の家庭を改造
してトーチカにするものもあり
ます。嘉敷にはコンクリート
製のトーチカがあります。
嘉敷にあるトーチカは小銃
の跡が破壊されたこと
の戦いの激しさをかわか
ります。

市平大使
嘉吉又
真志喜中
学校生

戦争が起ころと、
何か変わるのか、
戦争が起ころと、変
わることはあります。
沖繩では沖縄戦前
で10の事が起ころと
①脅威となる国を敵
国とする ②敵国の言
葉の使用禁止とする
③文化風習を統一
する ④一票一統、又
コミが支配 ⑤軍国
主義の国家にする
⑥戦争のための法律
を作る ⑦教育と戦
争を関連づける。
⑧戦争準備に住
民を駆り出す。
⑨軍事機密の流
出を防ぐ ⑩方言
の使用を禁止する
これら戦争で少し
安全になる事か分か
ります。さらに、
戦争が終わると、
食料が不足した
り、日本兵はヤク
になたり、子供は、
くつをみかき少し
上の年の子は、ブツ
の下にはなたりし
て暮らしてました。
建物も壊されてい
て学校に行けるよう

特別攻撃隊とは？

特別攻撃隊とは軍隊
の部隊の構成の一つで自爆
攻撃などを目的とする必死
の部隊です。略して、
特攻隊と呼ばれる。
の特攻には種類があ
り、例えば桜花という物
は母機に吊るされて目
標付近で切り離した
後、ロケットを作動させ
て加速後、勢いで滑空
し、搭乗者が誘導す
る物だったり、回天は、
海軍が開発した人間
魚雷です。実際の搭乗死
者は80名ほど、その中の1
名は訓練で死亡しました。
伏龍は人間機雷とも
呼ばれています。これは、
潜水具を着用した兵



人間爆弾・桜花



人間魚雷・回天



潜水特攻・伏龍



水上特攻艇・震洋

士が浅い海産に立って
待ち構え棒の先に着いた
機雷で上を通す。船を
爆破するといつ特攻隊
です。(これは訓練中、機
雷を飛ばしたため、実際には
使われなかった) ほかにも、
震洋は、日本海軍が、
開発して使用した特攻兵
器です。つくりが簡単で、
大量生産されました。
震洋の死者数は、500人
以上です。神風特攻隊
は爆弾を乗せた航空機
による空母への体当たり
攻撃です。

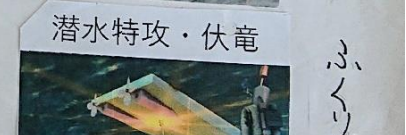
編集後記
今まで知っていたこと、あった
ことが多かったこともあって、それが
知れてよかったです。特攻隊な人が
ほんのりに種類があったのか、と
おどろいた。自分も特攻隊で
これから死ぬと考えると、それ
だけで戦争中のことをかたわ
てくる。今は平和です。かま
いづか戦争が起ころとないよ
うにみんなに知たことを伝えて
いきます。



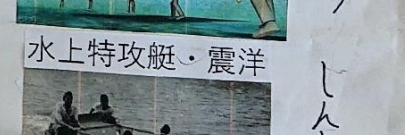
おうか



かいてん



ふくりゅう



しんりょう

研修報告



平和学習を通して

嘉数中学校 1年 山城 暁

ぼくは、平和学習をしてきた中で色々新しいことを学びました。そのことについて紹介します。

まず、ぼくが平和大使をやってみたいと思った理由について紹介します。ぼくは、テレビなどを通して、ヨーロッパの戦争について見たことがありました。しかし、沖縄戦については、まだ知識が浅く、「自分たちが住んでいる沖縄戦についてもっと知りたい」と思ったことが平和大使をやりたいと思った理由です。

次に、平和大使で行った活動の中で特に印象に残ったことを紹介します。一つ目は、大城和喜さんの話の中であった、直接戦地において被害を受けた人たち以外の人たちの話です。第二次世界大戦中、ドイツに支配されていたポーランドでは、ホロコーストというドイツ人によってユダヤ人が大量に殺されたというできごとがありました。ユダヤの人々は、ドイツ人と直接戦争をしていたわけではなく、一方的に差別され、ぎゃく殺されてしまったそうです。ぼくは、この話を聞いて、戦争ということは、直接関わってなくても、差別がおきたり、人が殺されてしまうというおそろしい面があると感じました。また、他の地域でも同じようなことがあったのではと思い調べてみると中国でも同じようなできごとがありました。中国では、日本の兵士がスパイだと決めつけて中国の人を大量ぎゃく殺するできごとがあったそうです。

ぼくが、紹介したでき事は、戦争のほんの一部にすぎません。戦争というものは直接関わってなくても大きな被害をもたらすものです。そのような戦争を二度と起こさないためにも、これから平和大使として戦争について学び、どうすれば起きないようにできるかを考えていきたいです。

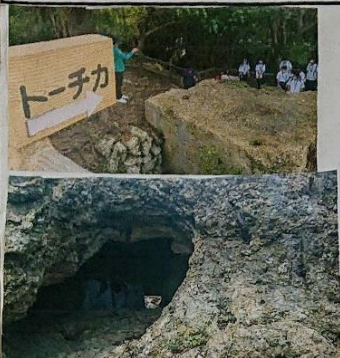
平和新聞

事前学習習一日目

事前学習習一日目は、まず嘉数集落に行った。

嘉数集落にある嘉数高地は、沖繩戦の中の激戦区の一つだ。小高いおかになており、日本軍は一つの拠点にしていた。そこに行ってみると、今でも日本軍が使っていた陣地がトーチカが残っている。またトーチカには、とこざとこざとばく弾でかけており、弾こんも見られそうとう激しい戦いだたことかあかる。

身近にあった戦争



実際にトーチカに入った時の写真

令和3年度
野津市平和大使
宣数中学校
年 山城 暁

二日目



『ペリリユ』島の楽園のゲルニカ曰、絵はかわいいが、内容はリアルなあり、時、あもしろいのよとて言われてほしい。



沖繩島の南にある日本の防衛ラインのため、激戦区となつた。

事前学習習二日目は、漫画『ペリリユ』楽園のゲルニカ作者の武田一義さんの講話だった。『ペリリユ』楽園のゲルニカは、フリュビンの東部に位置するペリリユ島が舞台となつている。激戦区となつた島は、太平洋戦争時に日本の絶対防衛圏であり、飛行場があった。そのため、日米両軍ともに大切な島であり、激しい戦いが行われた。漫画の取材かとして、武田一義さんは、このなせかという、戦争体験者に話を聞くと、いざな記おくを思ひだし、おいかえされる事かあたらしくいかつた。戦争は、人が死んだり、家などかつちがえられたりするだけでなく、心に深い傷をおわせる事かわかつた。

二日間の事前学習習

で感じたこと

私はこの二日間に、学んだことで、一番心に残っている事は、嘉数集落の事である。なせなら、今自分たちが住んでいるすぐ近くで、激しい戦争があつたからだ。今までは、沖繩戦といつても、糸満などの南部のイメージが強くあつたが、嘉数高台の陣地が、トーチカ、トーチカを見てみると、自分たちが今、住んでいる地域でも、戦争といつても、なかなかできごとかあつたなと思つた。また、戦争体験者は、戦争を生き抜くことかできても、戦争か大きなトラウマになるという事も、あまり知られていないが、戦争の恐ろしい所だなと感じた。

いよいよいよいよ

私のいよいよいよいよは、パプアニューギニアという、東南アジアにある国のフリーゲンビル島で七十年た。第十八師団といつた部隊に所属して、日中戦争の時に公羽英作戦といつた作戦の後、フリーゲンビル島で七十年た。フリーゲンビル島は、餓死による死者かとして、多ク、そのための餓島と呼ばれる。



日中戦争時に、勝利を記念して作られた。フリーゲンビル島入城記念と書かれている。いよいよいよいよの唯一の記念碑である。

研修報告



平和大使を通して

嘉数中学校 1年 我如古 悠士

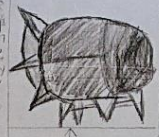
僕が平和大使で学んだことは、次の2つです。一つ目は、戦争中、人々が知恵を絞って生き残る術を見つけ出し、生きのびたということです。二つ目は、米軍が徐々に無差別に攻撃していき、一般の人たちがどうしようもなくなっていたということです。

なぜ一つ目の戦争中、人々が知恵を絞って生き残る術を見つけたことを学んだかというと、僕がガマを見たということです。ガマは全て石かコンクリートで作られていて、そのせいか、ガマの中は、とてもすずしかったです。ガマの外面には、爆弾が爆発した跡があり、とても役に立ったと知りました。二つ目は、米軍が無差別に攻撃していったとありますが、ガマに隠れば生き延びれるという訳ではありません。戦争の中盤くらいに、ずる賢い日本軍が米軍が県民は攻撃しないことを利用し、日本軍が県民に変装し、米軍を騙したことで、もう何も信用できなくなった米軍が隠れていた住民を火炎放射器や爆弾で沖縄の端から端まで焼き尽くしてしまい、死者は、日本軍が九万四千百三十六人、住民が九万四千人が亡くなったとされている。この約20万人の死者は、沖縄出身の軍人・軍属を含め、約4人に1人が亡くなったとされています。

僕が、この平和大使をしたいと思った理由は、僕が沖縄戦について知りたいと思ったからです。そして、この沖縄戦で学んだことを家族や友達と共有し役に立てていこうと思います。沖縄戦について調べ学んでいくうちに知りたいことがどんどんふえて、おもしろいので、平和大使の活動を終えても、調べることは続けていこうと思います。

平和新聞

発行所 我如古 悠士



この3日後の8月9日午前1時、原子爆弾が広島に落とされた。この爆弾は、アメリカ軍の科学者によって開発された。広島に落とされたのは、第二次世界大戦の終結を促すためであった。

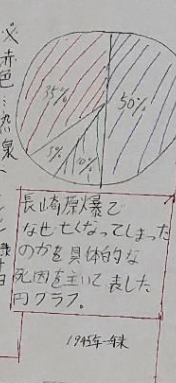


機長ナールス・スパーマンの証言によると、長崎に落とされた原子爆弾は、広島に落とされた原子爆弾よりも威力が大きいと見られる。機長は、爆弾が落下した瞬間に、機内から落下したと報告した。機長は、爆弾が落下した瞬間に、機内から落下したと報告した。機長は、爆弾が落下した瞬間に、機内から落下したと報告した。

投下の第一目標は福岡県・小倉。現存の北九州市米軍の記録によると、スパーマン機長は、8月9日の夜、小倉に到着した。小倉は、西日本の最大の鉄鋼工場であった。しかし、小倉付近は曇り、目標を定められず、長崎に落とされた。機長は、長崎に落とされた原子爆弾は、広島に落とされた原子爆弾よりも威力が大きいと見られる。機長は、爆弾が落下した瞬間に、機内から落下したと報告した。

7万人以上 犠牲になった

長崎原爆、犠牲者7万人以上。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。



終戦後、長崎市の三笠製鋼工場は、長崎原爆の犠牲者となった。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。長崎原爆は、広島原爆よりも威力が大きいと見られる。

アフガン政権崩壊

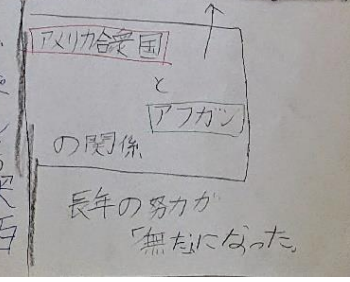
アフガン政権崩壊のニュース記事。アフガン政権は、2021年8月17日に崩壊した。アフガン政権は、2021年8月17日に崩壊した。アフガン政権は、2021年8月17日に崩壊した。アフガン政権は、2021年8月17日に崩壊した。

アフガニスタンの戦争

アフガニスタンの戦争に関する記事。アフガニスタンの戦争は、2021年8月30日に朝刊に報道された。アフガニスタンの戦争は、2021年8月30日に朝刊に報道された。アフガニスタンの戦争は、2021年8月30日に朝刊に報道された。アフガニスタンの戦争は、2021年8月30日に朝刊に報道された。

茶の物語

米軍の遺体処理作業に関する記事。米軍の遺体処理作業は、2021年8月30日に朝刊に報道された。米軍の遺体処理作業は、2021年8月30日に朝刊に報道された。米軍の遺体処理作業は、2021年8月30日に朝刊に報道された。米軍の遺体処理作業は、2021年8月30日に朝刊に報道された。



日本と世界の戦後の年表

日本	世界
1945年8月、ポツダム宣言を受け入れ、日本が無条件降伏する (太平洋戦争終結)	
20歳以上の男性による総選挙実施 日本国憲法が公布される。 1945.4 (1)	1945 1945.10 国際連合(国連)が発足する。
労働基準法・独占禁止法など公布 1947.4	1947.8 インドとパキスタンが独立 1949.4 北大西洋条約機構成立 10 中華人民共和国が成立 1950.6 朝鮮戦争(~1953年)
朝鮮戦争特需で経済復興進む。 1950	1952.11 アメリカによる初の水爆実験 1953.8 連年の水爆保有力明かす 1955.4 アジア・アフリカ会議
サンフランシスコ平和条約と 日米安全保障条約が締結される GHQの占領から終戦主権回復 高度経済成長が始まる。 1952.4 1955	1959.1 キューバ革命 1960. 「アフリカの年」 アメリカ軍が北爆を開始 アフリカで17の国が独立
55年体制が成立 11	1965.2 ベトナム戦争激化
連年の敗戦回復(日ソ共同宣言) 1956.10	1967.8 東南アジア諸国連合設立 1972.2 アメリカと中国が関係改善
国際連合に正式加盟 12	
日米新安全保障条件 調印 1960.1	
東京オリンピック開催 1964.10	
日韓基本条約に言明 1965.6	
公害対策基本法公布 1967.8	
沖縄が返還される 1972.5	
日中国交正常化 9	
1973.10 第四次中東戦争⇒石油危機(オイルショック)	
世界のGNI占める割合が10%に 1980	1975 1975.11 第一回サミット開催
75ヶ国同意 1985.9	1980 1980 連年ペレストロイカ開始
昭和天皇お亡くなり 1989.1	1989.6 天安門事件 12 ミルタ会談で冷戦終結宣言
1989年から 始まる女子景気が終了	1990.10 東西ドイツの統一 1991.1 湾岸戦争 12 ソ連が解体 ロッソ連邦が成立 1993.11 EUが発足
バブル経済の崩壊 1991	
55年体制の終わりを 1993.8	
阪神・淡路大震災が起きる 1995.1	
1995 インターネットの普及と拡大	
日朝首脳初会談 2002.9	2000 2001.9 「アメリカ 同時多発テロ」
自衛隊をアフガンへ派遣 2004.1	2003.3 「イラク戦争」
民主党の鳩山由紀夫が首相に 2009.9	2008 世界的な金融危機
東日本大震災 が起る 2011.3	
「平成二十八年熊本地震」 が起る 2016.4	
2020	



我如古 悠士

研修報告



平和大使に任命されて

宜野湾中学校 1年 仲村 将琴

コロナウイルスの影響でできなくなったこともありましたが、沖縄県の戦争や平和だけではなく、県外の原爆や海外での戦争などといったことも学ぶことができました。

その研修を受けてみて、僕自身が学んだものは、まず沖縄戦。

皆さんも知っていると思いますが、本当に悲惨な出来事だったことを学び、又広島、長崎の原爆での大勢の死、そして海外の戦争などといった、僕が知らないものもありました。

でも僕自身が今回学んだものは、戦争などの知識だけではないと思います。

なぜなら、以前の僕の場合は学校で学んだ戦争の話を、上手に話すどころか、そもそも戦争というワードさえも言えませんでした。

でも今の僕は、研修を通したお陰で、出来事を単に伝えるだけではなく、戦争のことに対して今後、その本人が自分から調べ、学び、伝えるといった行動ができるようになるためにまず、研修で知った戦争の漫画を使い、出来事を知ってもらい、その出来事に対して深掘りしてほしいのです。そして僕は、後世に伝え続けねばならない理由も伝える必要があると感じています。

平和大使新聞

令和3年度
宜野湾中平和大使
宜野湾中学校
1年 仲村 将琴

台高数嘉の戦地激の1の縄沖

嘉数高台が戦地激になったわけ

嘉数高台の構造

嘉数高台には、トイカや陣地壕など戦時に使われたものたくさん残っており、高台だけではなく周辺の民家のかげにもたくさんさんの弾痕などが残っています。

激戦地になったわけ

米軍は嘉数高台を2日で制圧し、通過する予定だったものの、2週間もかかったのは、わけがあります。

嘉数集落の住民と日本兵の関係

集落の人口は日本兵に家を提供し、住民は壊れたものを手伝っていました。でもそれは住民にはデメリットしかかかったのになせなのようが行動を妨げたのでしゅうか。朝多時か午後5時頃まで作業をしていました。

激戦地

他にも戦艦を物語る弾痕の跡や沖繩戦でなく、大集落住民の苦難の跡、京都の塔などの慰霊碑が多数点在しています。

展望台は戦後世界平和を願う地球儀をイメージして作られました。米軍は嘉数高台のこと、死の望みやまじい直志と恐れられていました。日本兵の自爆攻撃や、まじい穴をほった地面に爆弾を落とす兵士が入り、戦車もまた、自分の命もろともふきとばすという非惨な作戦があったと言います。



海外の平和学習

武田一義氏の講話

今回「ベリリユー・楽園のケルニカ」の作者である武田氏の講話を聞き、またこのマンガは他の戦争について学べるもの、多くの世代の人に戦争の実態を伝えられるマンガです。他の戦争を学ぶ初めは、幸い気持ちになり読むのをためらうものか、マンガになって読むのがよく、実際にあったことをしっかりと書き、またこれを読みにみなさん、この「ベリリユー・楽園のケルニカ」を読んで見てください。

特攻兵 特攻隊

特別攻撃隊を略称して特攻隊といえます。戦死前提の部隊のことをいって、特攻には、「航空特攻」「水上特攻」などいろいろな特攻隊が存在しました。

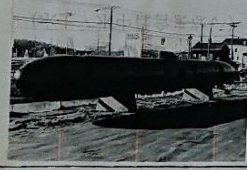
神風特別攻撃隊



水上特攻艇・震洋



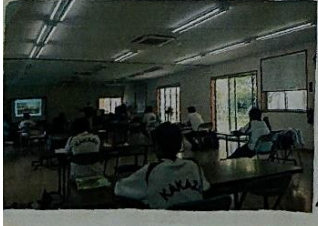
人間魚雷・回天



2日間で学んだこと

まず嘉数の激戦地のことや、平和大使の使命を学び、国内だけではなく海外のことについても学びました。戦時の行動や、戦間のかたなども学びました。

今回学んだことを周りの友達にも伝え、戦争の非難や命の尊さを改めて深く学びました。



研修報告



平和大使として学んだこと

宜野湾中学校 1年 本間 翔也

僕は去年県外から沖縄へ転入してきたのですが、当初は沖縄はきれいな海に囲まれた楽しい所だと思っていませんでした。でも、平和大使として学習を重ねるにつれてだんだん複雑な気持ちになってきました。

僕が平和大使の学習を通して思ったことは「戦争は醜いものだ」ということです。戦争をすると、相手国も自国も戦争での損害が尋常ではありません。争いをしてしまうと罪もない多くの民間人の命が奪われ、その上今まで築き上げた政治や経済が小さくなってしまいます。争いをしなければそのまま順調に大きな国へと発展して、国民も危険にさらされず安全に平和に生きていくことができます。

また、平和大使の学習で、戦争跡地巡りや映像資料などの研修を通して、戦争の事が徐々にわかってきました。それらの中で特に印象に残っているのは、嘉数高台です。そこには戦争の生々しい記憶が残されています。その一つにトーチカがあります。トーチカとは日本軍が敵と戦うために設置した分厚くて四角い鉄筋コンクリートの陣地壕のことです。今では元の形がわからないくらい破壊され、壁には無数の弾痕が散らばっていて、戦争の激しさが生々しく残っていました。戦争で赤ちゃんからお年寄りまで数えきれない命が無残にも奪われたと思うと、心が痛みました。ふかふかのベットで寝ている自分、おいしい物を食べている自分が浮かんで来て、どれだけ幸せな毎日を送っているのか気づきました。また、「ペリリュー楽園のゲルニカ」の作者「武田一義さん」との学習会では漫画から戦争の悲惨さや残酷さをたくさんの人に伝えられるという作者の思いを聞きました。子どもにも分かりやすいと思いました。

最後に、沖縄のきれいな海の裏には悲しい過去があり、今の平和、今の生活を大事にしないといけないと思います。一人ひとりができることは小さいけれど、平和について考える人が増えるといいと思います。

平和学習から感じたこと

平和新聞

事前学習

一日目

令和3年度
宜野湾中平和大使
宜野湾中学校
1年 本間 翔也



① 事前学習 戦争に
ついて勉強して
みたいと思った。
② 陸地と海
日本軍が陸地を捕
えるために海軍
軍艦の上空を飛
び回っていた。
③ この陸地の中は
頭を落とせばこ
れで済むから、
走らなければな
い。



④ トーチカとは、
鉄筋コンクリート
の壁に掘られた
防衛用の壕です。
砲撃を免れる
ために、砲撃の
中心を避け、
銃眼や真鍮の
機銃を動かす
ために使われ
ていました。

⑤ トーチカは、
目的がかわらな
いままに、
使われていた。
目的がかわらな
いままに、
使われていた。

⑥ トーチカは、
目的がかわらな
いままに、
使われていた。
目的がかわらな
いままに、
使われていた。

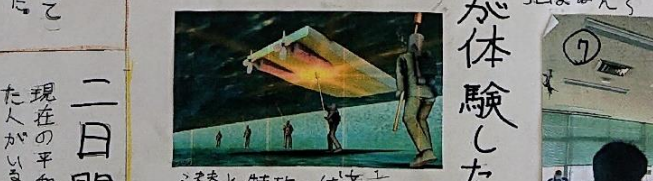
⑤ 一目の感想
陣地・トーチカ・銃眼
の感想
陣地・トーチカ・銃眼
の感想
陣地・トーチカ・銃眼
の感想

⑥ 二日目の感想
元・特攻隊の出石井兄弟が生まれて隔って
これたのは、夫に奇蹟的な運命を感じた。
伏電なんでも、中にも、
水中にいては、
死んで、
考え、
なんでも、

⑦ 二日間の感想
現在の平和があるのは、
人が、
二、
でも、
思。



⑥ 写真⑥の二人が体験した特攻
人間魚雷・回天
船から発射し、
進み敵船を沈める。



⑦ 潜水特攻・伏電
あらかじめ水中に橋の先
には薬を付けて、
真上に敵船が通ると、
背中と橋の薬を落とす。



⑧ 二人の感想
この二人は、
伏電と人間魚雷・回天
の特攻隊に、
回天は、
回天は、
回天は、



⑨ 二人の感想
この二人は、
伏電と人間魚雷・回天
の特攻隊に、
回天は、
回天は、
回天は、

研修報告



沖縄戦を継承できるのか

沖縄国際大学大学院 1年 石川 勇人

平和教育の中でこのような疑問を抱いてきました。その原因には以下の点があるのではないかと感じていました。それは、私たちが継承しようとしていることは、沖縄戦時の出来事が中心になっているということです。

戦時体験が平和教育の中心となることで、より戦争から遠ざかる世代にとって「戦争は自分には関係ない出来事」と思わせるのではないかと思うのです。

そこを乗り越えるためにも、平和教育で見落とされがちな、体験者の戦後史、もしくは戦前史を学ぶことで、私たちが戦争を再び繰り返さないためのヒントを得ることができると考えていました。そう思ったのも、体験者の「人生」から学べることがあるはずだということを、数多くの体験者の人生を聞き取る中で強く実感していたからです。

今回の平和大使の事業では、ペリリュー島に関する話がありました。体験者の戦後史について触れられていたのが印象的でした。

戦争のことを語ることは容易ではないことを感じる事ができたと思います。

また、非体験者が戦争をどのように伝えていくのかという点に関しては、武田一義さんをはじめ、平和ガイドの方々から学ぶことも多いのではないかと感じました。

継承＝語り継ぐというあり方だけではないということを、研修を通して教えてくれたと思います。漫画を通して継承する、もしくは音楽を通して継承をするといった形で、多様なあり方があるといいということを示していると思います。

戦後76年が経過し、いよいよ体験者がいなくなる時が迫っています。だからといって悲観的になる必要はない、ということはこの事業を通して出会った人々が教えてくれました。

令和2年度平和大使 活動報告

学校名・教育機関名	氏 名	学 年
普天間中学校	おおかわ れいじゅ 大川 麗樹	2年
	なかむら もあ 仲村 萌愛	2年
真志喜中学校	みやぎ ほのこ 宮城 穂乃子	2年
	まつだ りあ 松田 梨愛	2年
嘉数中学校	なご たかし 名護 天志	3年
	な か ま はるね 名嘉真 遥音	3年
宜野湾中学校	おおしろ ゆか 大城 夕夏	2年
	とうま ここな 當間 心柊	2年
沖縄国際大学	のむら みいめ 野村 美芽	2年



令和2年度平和大使フォローアップ研修

令和3年12月18日（土）に、昨年度の平和大使9名のフォローアップ研修を実施しました。

「フォローアップ研修」とは・・・宜野湾市の平和大使として戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを次代へ継承する役割を担うには、沖縄戦の実相についてより学びを深め、継続的に学習することが重要だと考えています。平和大使に認定された翌年に、**スキルアップ**のため実施している研修です。

研修場所

- ①奉安殿・忠魂碑（沖縄市）
- ②戦後引揚者上陸碑（中城村）
- ③161.8高地陣地の戦闘指揮所・陣地壕跡（中城村）
- ④旧西原村役場壕跡（西原町）
- ⑤【ワークショップ】西原の塔（西原町）



▲奉安殿



▲忠魂碑



▲戦後引揚者上陸碑



▲161.8高地陣地の戦闘指揮所・陣地壕跡



▲旧西原村役場壕跡



▲西原の塔

令和2年度平和大使フォローアップ研修

ワークショップ『沖縄戦の担い手』

👤あなたが知った「誰かの戦争体験」をメンバーに伝えてみよう

〈 調査 〉



①西原町民の証言（戦争体験）を読んで、内容の要点をメモしよう！



②証言に関する出来事について他の資料から調べよう！



③証言を通して何を伝えたいですか？



④ガイドのためのシナリオを考えよう！（持ち時間1人×2分）



〈 ガイドチャレンジ 〉



持ち時間が1人2分と短い中、証言をそのまま伝えるのではなく、研修を通して学習したことや亡くなられた方の思いを織り交ぜてガイドするなど工夫が見られました。

ガイドを体験して

- 伝えることの難しさと同時に、伝えていくことの大事さに気づくことができた。
- 何から最初に伝えるか、一番何を相手に伝えたいか考えるのが難しかった。
- 難しかったけど、聞く側と違いその話を経験した人の思いも一緒に伝えることができた。

研修を振り返ってみて

- 沖縄戦について、県全体で1つの”戦争”と考えていたけれど、地域ごとや証言で1人のことについて詳しく考え、知ることで学べることも沢山あることが分かった。
- 私たちの戦争に対する考え方とは違う捉え方の戦跡に触れることができ、視野が広がったと思う。

平和大使育成事業実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、世界平和を希求する「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」の理念の下、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材（以下「平和大使」という。）を育成するため、平和大使に関する基本的な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要綱における定義は、次に掲げるとおりとする。

(1) 平和大使 戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを時代へ継承する者をいう。

(2) 青年層 おおむね20歳から39歳までの者をいう。

(平和大使の資格要件)

第3条 宜野湾市立中学校長、市内に所在する高等教育機関及び社会教育関係団体の所属長が平和大使に推薦する者は、次の要件を全て満たさなければならない。

(1) 宜野湾市立中学校に在籍し保護者の承諾が得られる生徒又は宜野湾市内に住所を有する青年層若しくは市内に所在する高等教育機関や社会教育関係団体に所属する青年層

(2) 青年層については、市税等を滞納していない者

(3) 過去に本市の平和大使として任命されていない者

(4) 現に本市の職員でない者

(5) 健康で5日間程度の県外生活に耐え、団体行動のとれる協調性のある者

(6) 思想、信条、宗教の如何を問わず市の平和事業に関心があり、広く平和を愛する者

(平和大使の選任)

第4条 平和大使の選任については、次に掲げるとおりとする。

(1) 各宜野湾市立中学校の生徒を2名ずつ選任する。

(2) 本市に所在する高等教育機関又は社会教育関係団体の青年層を若干名選任する。

(平和大使の決定)

第5条 市長は、選任された者のうち、特にふさわしいと認められる者を平和大使として任命し、平和大使認定証を交付するものとする。

2 宜野湾市立中学校から選任され、平和大使として任命された者から辞退の申出があったときは、同一中学校から選任するものとする。この場合において、前項の規定を準用する。

(平和大使の役割)

第6条 平和大使は、市民協働推進課の計画する県内の各戦跡等の研修（以下「県内研修」という。）及び長崎市、広島市等での研修（以下「県外研修」という。）に参加し、平和への認識を深めるとともに、研修終了後も市が行う平和推進事業に積極的に参加

し、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承するものとする。

(費用負担)

第7条 市民協働推進課の計画する県内研修及び県外研修に係る費用については、平和大使に対し、予算の範囲内において市が負担するものとする。

(平和大使の登録)

第8条 第6条に規定する研修を修了した者は、平和大使名簿に登録されるものとする。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日
宜野湾市

宜野湾市平和大使名簿

年度	名簿番号	氏名	学校名・団体名	学年
2020年度 (令和2年度)	1	オオカワ レイジュ 大川 麗樹	普天間中学校	1年
	2	ナカムラ モア 仲村 萌愛	普天間中学校	1年
	3	ミヤギ ホノコ 宮城 穂乃子	真志喜中学校	1年
	4	マツダ リア 松田 梨愛	真志喜中学校	1年
	5	ナゴ タカシ 名護 天志	嘉数中学校	2年
	6	ナカマ ハルネ 名嘉眞 遥音	嘉数中学校	2年
	7	オオシロ ユカ 大城 夕夏	宜野湾中学校	1年
	8	トウマ ココナ 當間 心椛	宜野湾中学校	1年
	9	ノムラ ミイメ 野村 美芽	沖縄国際大学	1年
2021年度 (令和3年度)	10	コバシカワ ライカ 小橋川 萊夏	普天間中学校	1年
	11	カワミツ サキ 川満 咲季	普天間中学校	1年
	12	ミヤギ リョウタ 宮城 亮太	真志喜中学校	1年
	13	マタヨシ リョウ 又吉 竜生	真志喜中学校	1年
	14	ヤマシロ アキ 山城 暁	嘉数中学校	1年
	15	ガネコ ユウシ 我如古 悠士	嘉数中学校	1年
	16	ナカムラ マコト 仲村 将琴	宜野湾中学校	1年
	17	ホンマ ショウヤ 本間 翔也	宜野湾中学校	1年
	18	イシカワ ユウト 石川 勇人	沖縄国際大学 大学院	1年

発行 宜野湾市
市民協働推進課 平和・男女共同係
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1
TEL 098-893-4119
FAX 098-892-7022
HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>